

京交山岳部報

例会・行先	日程・集合	担当者	コース
第2467回★★ 由布岳・両子山	11月2日(水) ～6日(日) 19:00 集合 集合場所未定	吉田 武	2日 京都南IC－3日(途中仮眠)小倉東IC－R10湯布院町－由布岳登山口…由布岳往復－湯布院温泉 泊まり 3日 湯布院温泉－別府市－旧R10－大田村－両子寺…両子岳往復－国見町国見温泉「あかねの郷」泊まり 4日 国見温泉－国東半島－名所散策－鉄輪温泉 泊まり 5日 鉄輪温泉－R10－中津市－小倉東IC－京都
<p>備考 参加希望者は担当者まで連絡をお願いします。その他、オプションツアー有</p> <p>装備 テント, シュラフ, 日帰り登山装備, 嗜好品</p> <p>費用 45,000円</p>			
第2468回★ 奥美濃 日永岳	11月3日(木) 7:00 竹田駅西口集合	井戸 澄夫	京都南IC－(東海北陸道)美濃IC－神崎川仲越…日永岳往復
備考 帰路に、武芸川温泉に立ち寄る予定です。			

第2469回★ 岳連 自然観察会(地質) 井出丘陵	11月13日(日) 8:30 JR京都駅 地下東改札口前集合 (8:50発 みやこ路快速乗車)	方山 宗子	京都駅8:50-玉水駅…天神 川…橋諸兄公墓…玉川…多賀 フルーツライン…山城多賀駅
備考 参加申し込みは11月5日までに担当者へ。 費用 参加費800円, 交通費(約960円) 地形図 国土地理院2.5万図「田辺」			
第2470回★ 音羽山～高塚山	11月20日(日) 8:00 京津線大谷駅集合	清水 康裕	京津線大谷駅…音羽山…高塚 山
備考 参加希望者は, 担当者まで連絡をお願いします。			
第2471回★ 京都一周トレールを 歩く 第4回 大原から山幸橋	11月26日(土) 8:45 地下鉄烏丸線 国際会館駅集合 (京都バス乗車)	岡田 茂久	国際会館駅京都バス乗り場- 大原…江文峠…静原…薬王坂… 鞍馬…二の瀬…夜泣峠…向山… 山幸橋
備考 参加希望者は, 前日までに担当者へ連絡をお願いします。			
今月の集会 日時 11月11日(金) 18:30～ 場所 厚生会館4F 大教室		企画運営委員会 日時 11月21日(月) 18:30～ 場所 厚生会館4F 六角会議室	



ススキの穂もゆれて, ようやく秋風が心地よく感じられるようになったが, 10月中旬に行った曾爾高原は紅葉には少し早かった。11月3日の美濃日永岳では全山を覆う紅葉が見れると思う。

このところ大規模な自然災害が続いているが, 10月8日にはパキスタン北部で, 阪神大震災の約11倍のエネルギーをもつ大地震が発生し, 約4万人が死亡し, 320万人が家屋を失うという壊滅的な被害が発生した。この地域は大陸移動説によると, インド亜大陸がユーラシア大陸にぶつかる線上に位置する。ヒマラヤ山脈を形成してきたといわれるインド亜大陸の移動は, 今でも年に約4cmずつ北方へ移動を続けている。この大陸同士のぶつかり合いが, 大地震を発生するエネルギーを蓄積する。インド洋周辺では, 昨年12月にスマトラ島沖の海底地震で津波が発生し, 11ヶ国にわたり約23万人が

死亡している。被害の規模が大きいのは、やはり防災対策が充分なものでないようである。パキスタンの大半の人家は石や日干レンガを積んだだけのもので、地震の縦ゆれとその後の大きな横ゆれであっけなく崩れてしまう。戦乱と貧困に苦しめられ、さらに天災に追い打ちをかけられるといった悲惨な状況を救済するためには、国際的な援助が必要不可欠である。日本からも自衛隊が行っているようであるが、地震多発国であり、地震対策のノウハウも豊富であるので、お役に立てることも多いのではないかと思う。

懸案であった地下鉄の運賃改定条例案が市議会で可決した。実施時期は来年1月を予定している。改定内容は1区200円を210円に、2区から5区まではそれぞれ20円の値上げとなる。付帯決議として、収入増への努力、市民への十分な説明、利便性の向上などが提起された。平成8年の改定以来、9年ぶりの改定であるが、国内景気がようやく好転し始めてきたとはいえ、まだまだ厳しい市民の経済状況が続いている中で、運賃を値上げすることは非常に申し訳ないことである。利用者の皆様への説明を十分に行い、より一層のサービス向上に努力していかねばならない。

市バスではMKが近畿運輸局へ申請していた新規参入計画を撤回した。7月から始まった生活支援路線モデル実証実験にジャンボタクシーで参画し、良好な結果が出ていることと、今後、更なる参画の拡大が期待できることから、敵対的な新規路線参入の必要性がなくなったということである。どうやら生活支援路線37系統すべてをまとめて面倒みようというような意気込みである。予想されていたことであるが、MKの意図してきたことが徐々に姿を見せてきたようである。交通局や他の既存バス事業者がどう対応していくのか、難しい局面となってきた。

(H. 17. 10. 20. 記 S. I.)

【第2461回例会】

「第3回」京都一周トレイルを歩く

北白川から大原戸寺(1)

岡田茂久

9月18日、久しぶりの快晴である。今回は参加者も多く賑やかだ。

前回の「第2回 京都一周トレイルを歩く 蹴上～北白川仕伏町」は雨の予報で、参加者が少ない寂しい例会となり、やはり途中で雨となりもう少しでゴールの銀閣寺で打ち切った。

割愛した銀閣寺から北白川仕伏町までのルートは判り難い。標識51の銀閣寺前から疏水に沿って白川通まで出て右折する。途中の白川と疏水の交差は逆サイホンという珍しい構造である。常に観光客が多く行き交う賑やかな道で、春の桜の季節は素晴らしい。白川通の橋を渡り由緒ありげな菓子屋前の斜めの道を北上する。突き当りの左側が開発問題で揺れた「半鐘山」である。次に交差する道が「山中越え」で標識52の交差点を右折し、「山中越え」の道をしばらくで左手が白川天神である。

白川女の発祥地であり、古くから都人に親しまれた神社で入口参道には多くの句碑が立っている。

鳥居の奥は幽邃な深い森で「トトロ」がふと顔を見せても不思議でない雰囲気である。北白川一帯の産土神で祭神は天神宮とあるが菅原道真公では無く、一寸法師のモデルとも言われ、大国主命の国治めの片腕とも言われた少名彦命である。正面の鳥居の右手にある井戸は隠れた名水で大変美味である。

トレイル本ルートは「山中越え」を直進するが、神社入口から白川の左岸に行く道も美しい。標識

53北白川仕伏町で本ルートと合流する。標識53を直進すると山中越え、左折しバプテスト病院入口が標識54で今日の出発地点である。

バプテスト病院への坂道を標識55から右に分岐する道に入る。この道は往古に白川にあった関所の抜け道である。標識56-1からの沢沿いの道は足元が悪く左の大山祇神社（地竜大明神）への参道を行くと良い。標識56-2から左の踏跡は「白幽子旧跡」へ直接に登る。沢の分岐にメタセコイヤの大木を見ると標識57。本ルートは右の沢沿いに登るが、今日は瓜生山を迂回することにし、直進する沢のルートを行く。北白川愛郷会が設定した北白川史跡と自然の道である。

沢にある古い取水設備は、かつてバプテスト病院敷地にあった島津製作所やGS日本電池の創始者である島津源蔵屋敷への配水設備の名残である。

次の沢の分岐を左にとると「白幽子旧跡」である。白幽子と呼ぶ仙人は臨済宗白隠禅師の「夜船閑話」に紹介されている実在の人物である。熟語に「白川夜船」があるが、行きもしないで京見物をしてきたと称する人が、白川のことを聞かれ「夜船でぐっすり寝ていたので覚えていない」と答えて嘘がばれたという故事から、ぐっすり寝込んで何も覚えていないことをいうから全く関係が無い。

「白幽子旧跡」からしばらく登ると、白川石を切り出した清沢口石切場跡で、この周辺にはかつて多くの良質の白川石を切り出す石切り場があった。白川の男は石切り場で働き、女は白川砂が花の栽培に適していたことから花を栽培、緋の着物に前垂れの独特の装束で御所に花を献上、洛中に花を売り歩く白川女として、朝廷から認められた独特の地位を獲得していたのである。

支尾根に登りつき右折すると道端に点々と小祠をみる。北山麓にある「狸谷不動」の巡礼道である。

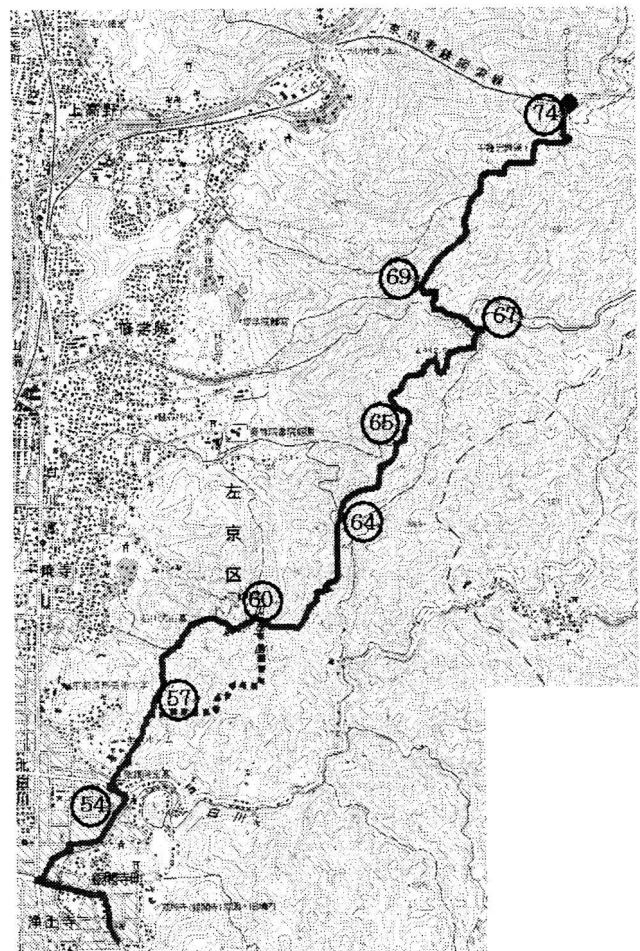
登りつめた広場が東山三十六峰の一つ、瓜生山（294.3m）、將軍山、白川山とも城山とも言う。祇園八坂神社の祭神牛頭天王が祇園に移る前にまずこの山に降臨された。牛頭天王は生来「きゅうり」を好まれたところから、「きゅうり」の神様が現れたので「瓜生山」と呼ぶようになったという。ちなみに祇園さんの紋様も「きゅうり」の輪切りである。

かつてこの山頂の岩窟に鎧兜姿の地藏様が祀られており、勝負事に御利益があり人々の信仰を集めたが、宝暦12年というから今から250年ほど前になるか、参詣に不便ということで下の方に移され空き家の岩窟だけが残っている。

また、瓜生山は室町時代の城跡で、瓜生山城、北白川城ともいう。比叡山延暦寺の足元であり近江への出入口でもある要害にあたり、京の都を戦乱の巷とし荒廃しつくした応仁の乱の重要な戦場ともなった。「長亭記」「応仁記」などの歴史書には何代もの将軍が何回もこの城に拠った記録がある。

山頂の東南に近く意外な場所に城の水場跡があり、今も赤茶けた水が溜まっている。

ルートは頂上の祠の左手を下るがすぐに分岐になる。直進すると狸谷不動に下るので分岐を



左折、しばらくで標識60のトレイルルートに合流する。標識61は白鳥山展望台への分岐であるが、展望台と称しても樹木が生長し展望は無い。北白川城の出丸の一つである。瓜生山から標識66から分岐する「てんこ山」まで点々と北白川城の出丸跡が続く。標識63から右への分岐は無動寺川から身代わり不動、地藏谷不動院に下る北白川史跡と自然の道の回遊路である。

標識64で現れる林道は曼殊院、武田農場に下る。標識65までは緩いようで結構の登りである。標識65の左に下る林道跡は崖崩れがあり荒れているが、先ほどの林道と合する。

標識65から一登りで林道跡のルートに変わる。標識66から分岐する「てんこ山」も古い城跡であるが、空堀、井戸、土塁跡等が確認できる。展望も無く登る人もあまり無い静かな442.5mの三角点である。緩い林道をたどると石の鳥居のある標識67で近年に音羽川の上流に砂防ダムが建設されたため、作業道路が整備され明るい広場となっている。

トレイルルートは左折し急坂を下り、音羽川を渡渉する。かつて関電巡視路の鉄橋が架かっていたが大雨で流出した。今は上流に砂防ダムが完成したため、よほどの大雨の後で無い限り渡渉できる。

音羽川を含め3本の沢を渡渉すると標識69の水飲対陣跡である。1336年、足利尊氏に追われた後醍醐天皇が叡山に逃れ、近臣千種忠顕卿が足利軍を向えて陣を張った跡である。左の道は修学院からのキラ坂、直進すると赤山禅院に下る。標識69を少し登ると好展望の場所がある。標識70から左へ下る道は下で標識69からの道と合し、赤山禅院に下るが道は余り良くない。

標識71の分岐を左に上ると千種忠顕卿の顕彰碑を経て標識72に到る。標識72は杉の植林の中の気分の良い場所である。直進するとケーブルの脇を通りケーブルの終点駅に出るが、左折して急坂を登り、パラボラアンテナの下の踏み跡を目指すと展望の良い道から、ケーブルの終点駅にでる。標識72ケーブルの終点駅の周辺は絶好の昼食場所である。(次号に続く)

【タイム】北白川仕伏町 8:15 瓜生山 8:50~9:00 標識65 10:00 水飲対陣跡 10:00
標識73 11:20~11:35 ケーブル終点駅 11:45~12:30

【参加者】井戸澄夫 方山宗子 清水康裕 竹田 勉 三橋 勉 森本清一 渡辺健太郎 渡辺智生
同夫人 和田良一 岡田茂久 11名

【第2462回例会】

室生の山

屏風岩・住塚山

井戸澄夫

竹田駅西口を出発したときはくもり空であったが、桜井を過ぎるあたりから雨模様となった。長野集落から「屏風岩公苑」の標識に沿って、細くて急な舗装道路を登っていくと、標高750mの地点に屏風岩公苑の駐車場がある。公苑は切り立った屏風岩の直下の平坦地で、桜の古木が多数立っている。屏風岩は室生火山群の噴火により堆積した火山灰が自熱で溶結した岩塊が風化作用により断崖となったもので、近隣にある兜岳・鎧岳と生成を同じくする。「公苑」から15分ほど登れば屏風岩頂上と住塚山の分岐に出る。東へ登れば屏風岩の一ノ峰・二ノ峰を経て若宮峠へ下る。一ノ峰頂上からは屏風岩の断崖が垂直に切り落ちている。分岐に戻って西へ行くと約20分の登りで住塚山山頂である。住塚山は二等三角点で1009.4mである。東側が開けており、俱留尊山、おかめ池、古光山の山なみがよく見える。おかめ池はススキの穂波が美しい。住塚山頂に到着すると同時に雨が強くなり、予定してい

た国見山への縦走は断念した。国道369号沿いの屋根つき休憩所で昼食をとり、棒原みはる温泉で汗を流して帰落した。

【コースタイム】 7：00竹田駅西口－R24・京奈和道－桜井－R369－長野－9：15屏風岩公苑…
9：30峠…（屏風岩往復）…10：45住塚山11：20屏風岩公苑－昼食，温泉入浴－帰
落16：30

【参加者】 森本清一，鷺見壽未子，渡辺智生，和田良一，井戸澄夫

【第2463回例会】

『粉糠山と金剛堂山』

OB 吉田 武

23日

東海北陸道の荘川ICで下りてR156号を牧戸より白川村からR360天生峠・標高1,200mまで車で登り天生峠より歩く。登山口には天生湿原を守るために募金活動をしていたが、持ち合わせているお金がなく下山したときに一人500円支払う約束で粉糠山へ向かった。

少しは紅葉しているがまだまだ先のような。40分も歩くと所々に湿原が広がっていた。帰りにゆっくりと見学をさしてもらうことにして湿原東回りコースを登った。

少し登るとブナ林がすばらしく樹齢数百年であろう大きなブナ林である。先ほどの募金している湿原を守る会の人々が整備したのか所々崩壊したルートを付け直して新しいルートに導いてくれた。

分岐からは尾根道となり緩やかに登っている，ブナやダケカンバなどが茂る爽やかなコースである。

頂上手前はみじかい急登で粉糠山についた。今までは視界が悪かったが頂上からは展望も開け，猿が馬場山から白山北方稜線の山が近くに見えた。

帰路は分岐より子平湿原の尾根コースを下った。

24日

朝から雨降りのためドライブを兼ねて金剛堂山の登山口である東俣峠まで行って河合村から飛騨市の温泉に入って帰ろうと思ったが，南砺市 平から「山の神峠」を越して河合村に抜ける林道が東俣峠手前で道路が崩壊して通行止めになっていた。しかし通行止めの看板が大勘場集落にしか無かったので大きなアルバイトをした。仕方なく南砺市 平に戻り白川村から白山スーパー林道を通り一里野温泉に入って帰った。

今回，金剛堂山に行くつもりがはずれ，白木峰も行けず林道も通行止めではどうにもならなかった。

悪天候のため今年は幌尻岳・武尊沢，そして今回の金剛堂山と3回登れなかった。

【参加者】 森本清一，他2名

【個人山行】

城 山

伊藤潤治

綾部市には「市の山10選」がある。その半数が史蹟の明らかな上林城山199.3m。高城山212.0m，甲ヶ峯227.5m，白髪城山253.1m，甲ヶ岳291.4mの城跡である。

この選に入れなかった城山が綾部市高倉町と同市小呂町の間にある。気になってコースは高倉神社か小呂峠（仮称）かと地形図を見ていた。日を重ねても決まらないのでご指導を仰いだ。

ご担当は現地に飛び長老（85歳）から、「昔は必要のために登っていた。小学校は遠足をした。近頃は時折り関電が鉄塔の管理でくるが他は入山しなくなっている。登山道は高倉神社からと小呂峠からがあった。（これを高倉町図にAコース小呂峠。Bコース高倉神社。をご記入の上）」を聞き取って下さったのである。そこに城山の史蹟は不詳とのご教示もいただいたのであった。

これで長老にお目にかかれるBコースに決まった。これに違反してAコースに向かうと夏草群の通せんぼう、困っていると付近の里人さんが夏草を伐り払いAコースにご案内下さったのである。

感謝、感激そして好調であったが、気ままな行動のため予定時間での登頂は無理に思えたので、またしても中退となった。

従来ならこれで終わっただろうが、意外にも翌日出直して、城山256.8m三等三角点の登頂を果たしたのである。山頂では天下を取ったようないい気分であった。

Bコースを高倉神社に下山、参拝のあとバス停でバスを待った。約束の時間がすぎてもバスがこないで尋ねてもらおうと、本日は終わったとのこと。

この緊急をバス停付近の里人さんが綾部駅に送って下さったので、この日もおかげさまで予定通り帰宅できたのであった。

このように終始幸せを恵まれた城山の山行記録は私の感謝と感激の詰まった貴重な宝物である。

平成17年8月11日（木）

地形図 2.5万図「綾部」

部 員 動 静

目 的 地	月 日	参 加 者	記 事
富士山	9月21日 ～23日	大槻 雅弘 他3名	21日 5合目駐車場にてテント泊
			22日 PM7:00出発。誰もいない山頂を目指し、6人の人と会っただけで13:10山頂。下りは須走りから5合目まで。16:50 5合目。その夜は河口湖のプチペンションに泊る。
			23日 今日は、神奈川県、山梨県、静岡県三県境の三国山に登って帰洛する。

例会報告

例会No.	目的地	月日	天候	担当者	参加者	記事
2461	京都一周トレールを歩く 第3回 北白川から大原戸寺 (1)	9月18日	快晴	岡田 茂久 方山 宗子 森本 清一 渡辺智生F1 清水 康裕	井戸 澄夫 竹田 勉 三橋 勉 和田 良一 他1名	(別稿詳報)
2462	室生の山 屏風岩・住塚山	9月10日	雨	井戸 澄夫	森本 清一 鷲見壽末子 渡辺 智生 和田 良一	(別稿詳報) 都合により、日程を変更しました。
2463	越中五箇山 初糠山・金剛堂山	9月23日 ～24日	雨	吉田 武	森本 清一 他2名	(別稿詳報)
2464	岳連 秋の自然観察会 宝ヶ池のきのこ	10月16日		方山 宗子		(次号報告)

雑報

△△△ 10月の集会

日 時 10月11日 (火)
場 所 厚生会館 4F 大教室
出席者 井戸, 吉田, 大倉, 岡田, 大槻, 渡辺, 和田, 方山, 堀田 9名
内 容 例会予告, 例会報告, 岳連関係報告ほか

△△△ 9月の企画運営委員会

日 時 9月21日 (水)
場 所 厚生会館 4F 六角会議室
出席者 井戸, 吉田, 方山, 清水
内 容 例会予定, 岳連関係報告について ほか

△△△ 他山岳会の会報 (受贈分)

9月号 近畿山行
10月号 青嶺, 京都山岳, 木雞, 趣味の登山, 比良山岳, 近畿山行, わっぱ
11月号 北山, 近畿山行